

『コロラドでの貴重な体験』

吉田中学校 羽田実礼

私にとって、コロラドで過ごした6日間はとても貴重なものになりました。出発前は、初めての海外で上手くコミュニケーションが取れるだろうか、時差で疲れないかなど不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、バスや飛行機で派遣団のメンバーと話をしているうちにその不安は無くなり、楽しみという気持ちが強くなっていきました。

約10時間という長い時間を飛行機の中で過ごし、お昼ごろついにデンバー国際空港に到着しました。そこからバスでコロラド・スプリングス市へ移動し、すぐにホストファミリーの方々に会いに行きました。バスから見えた雄大な景色、街並み、縦型の信号、看板などは日本とは全く違いました。1時間ほど乗り、いよいよホストファミリーとの対面です。“Mirei”と書かれたポスターを見た時、とても嬉しい気持ちになりました。自己紹介を終え、いよいよホストファミリーとの生活がスタートしました。

私は出発前にある目標を掲げていました。それは『自分の力で英語を聞き取り、積極的に自分から話しかける』です。ですが、最初は全然ダメでした。話すスピードがものすごく速く、発音も少し違ったりしてほとんど理解できず、翻訳機能を使いながらの生活でした。しかし、3日目ぐらいからだんだん話を理解できるようになり、少しずつ話せるようになりました。改めて現地の英語は違うなと実感しました。

ホストファミリーデーは、とても充実したものになりました。滝を見たり、マニトウスプリングスや動物園に行ったりしてとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、ホストマザーとクッキーも作りました。英語で作り方を教わりながら美味しく作ることが出来て嬉しかったです。作ったクッキーの大きさは日本と比べてとても大きかったです。食事も、ハンバーガーやピザ、スパゲッティなどアメリカンサイズを堪能することができて嬉しかったです。3日目のパーティーでは出し物を披露したり、みんなでプールに入ったりなど、とても良い思い出を作ることが出来ました。

また、4日目の派遣団での観光でも、ガーデン・オブ・ザ・ゴッズなどの様々な場所に行くことが出来て、コロラド州の良いところをたくさん学べました。

私は、この派遣事業を通して『言語が違っても、人々は繋がることができる』ということを知ることが出来ました。また、英語が上手ではない私たちにも優しく接してくれるという、人々の温かさを感じました。コロラドに行かせてくれた家族や先生方、市役所の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な体験を無駄にせず、これからの生活、将来に生かしていきたいです。